令和７年度
教育関連データのデータ連携の実現に向けた実証調査研究
実証Ⅰ高等学校入学者選抜のデジタル完結に向けた実証

＜実証事業報告書＞

令和 8 年 3 月 31 日

一般社団法人日本 1EdTech 協会

＜　目　　次　＞

1. 本報告書について 1

2. OneRoster / 1EdTech Consortium について 2

2.1. OneRoster Rostering Service 2
2.2. OneRoster Gradebook Service 2
2.3. 1EdTech Consortium 2

3. 結論 3

4. OneRoster による標準化の検討方針案 4

4.1. 生徒基本情報および入学者基本情報 4
4.2. 成績情報 4
4.3. 仕様の精緻化および実装に向けた支援 6

1. 本報告書について

本報告書では、「教育関連データのデータ連携の実現に向けた実証調査研究　実証Ⅰ高等学校入学者選抜のデジタル完結に向けた実証」事業における高等学校入学者選抜（以下、「高校入試」という。）の事務手続きのデジタル完結に向けた調査・実証の一環として実施された「高校入試の事務手続きで必要なシステム間におけるデータ連携の実態調査」の結果に基づき、高校入試のデジタル化におけるデータ連携の在り方や、技術標準の活用について検討を行ったものである。

本報告書では、高校入試の事務手続きで必要なシステム間のデータ連携において、1EdTech Consortium の定める技術標準である OneRoster Rostering Service および OneRosrter Gradebook Service の適用案をまとめる。

なお、本報告書における成績情報の検討は、調査書を基に実施している。

2. OneRoster / 1EdTech Consortium について

2.1. OneRoster Rostering Service

OneRoster Rostering Service は、学校における名簿情報（学校、クラス、教職員、児童生徒、履修関係など）を標準化された形式で連携するためのサービス（技術標準）である。

異なる学習システム間で名簿データを自動的かつ正確に共有することで、アカウント管理やクラス設定の負担を軽減し、運用の効率化とデータ整合性の向上を図ることを目的とする。

2.2. OneRoster Gradebook Service

OneRoster Gradebook Service は、課題、評価項目、成績結果などの学習評価データをシステム間で共有するためのサービス（技術標準）である。

学習ツールや学習管理システムで作成・収集された成績情報を標準的な形式で連携することで、教員の成績管理作業を効率化し、学習状況の可視化や一貫した評価運用を実現することを目的とする。

2.3. 1EdTech Consortium

1EdTech Consortium は、教育分野におけるデジタル学習の相互運用性を高める国際的な標準化団体である。

教育機関、企業、政府機関などが参加し、LTI、OneRoster、Caliper Analytics などの技術標準を策定・普及することで、教育システム間の連携性向上と、より効果的で持続可能な教育 ICT 環境の実現を推進することを、目的とする。

3. 結論

- ✧ 高校入試の事務手続きで交換される生徒基本情報、成績情報、および入学者基本情報には多くの共通点が見られ、OneRoster による標準化の検討が可能である。
- ✧ 都道府県やシステムごとに扱う情報に若干の差異が見られるため、一律で共通化できるデータ項目と、各都道府県や学校法人（私学）それぞれで求められる個別の情報を精査し、共通のデータ項目を標準化するとともに、都道府県や学校法人ごとの差異を追加で定義できるようする。
- ✧ 上記を日本における高校学校入学者選抜向けのプロファイルとして標準化し、公開する。
- ✧ 標準の精緻化にあたっては、ベンダーのほか、専門家、教育委員会、一般財団法人全国地域情報化推進協会（APPLIC）等の関連団体の知見を取り入れながら進める。

4. OneRoster による標準化の検討方針案

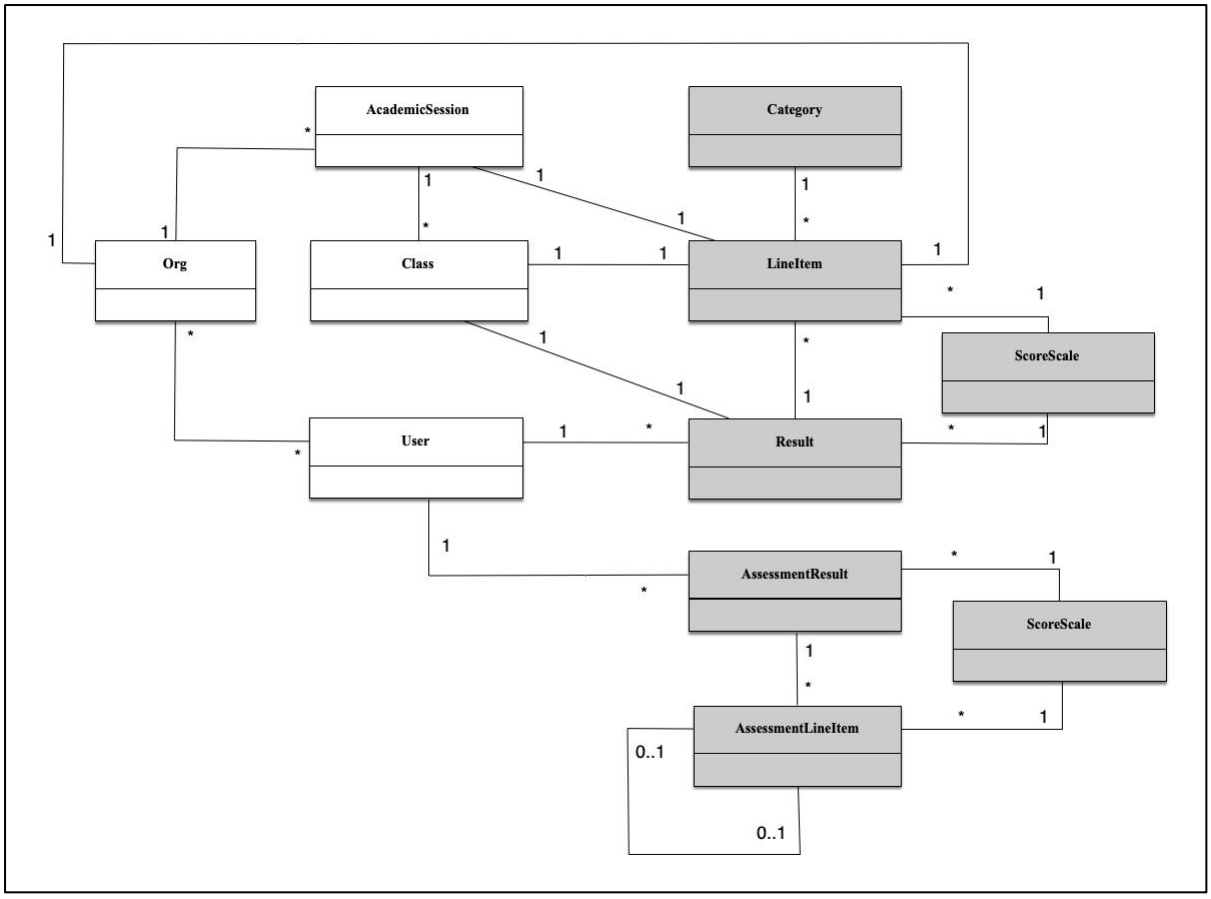
生徒基本情報および入学者基本情報の交換は OneRoster Rostering Service を、成績情報の交換に OneRoster Gradebook Service を。それぞれ基底のサービスとする。

4.1. 生徒基本情報および入学者基本情報

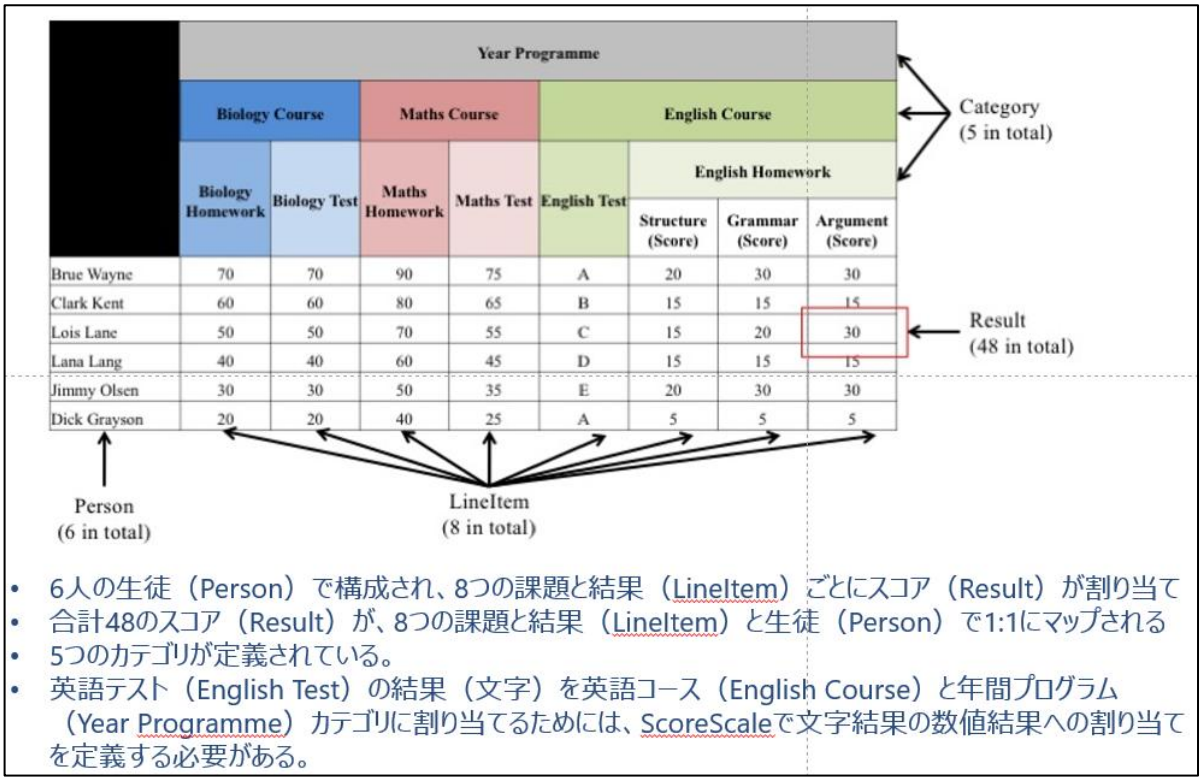
- 保護者の姓名等の基本情報は Rostering Service の User クラスを用いて表現する。Enrollment クラスの role プロパティを用いて、保護者 (Guardian) であることを表現する。
- 性別や生年月日等の統計情報には Demographics クラス用いてを表現する。さらに、住所等の居住者情報を扱うカスタムプロパティを追加する。
- 受験番号等、高等学校入学者選抜特有のデータ項目を取り扱う、新たなクラス用意する。

4.2. 成績情報

- 教科ごとの評定評価および観点別評価、特別活動の記録、行動の記録等、評価項目単位で LineItem を定義する。合計等を得られやすくするため、教科、特別活動の記録、行動の記録等、意味的なまとまりに Category を用いる。
- Category は階層化できないため、集計の単位に応じて必要なものを用意する。図 3 の例の場合、「教科評定」、「観点別評価」、「特別活動の記録」、「行動の記録」を Category として表現し、「国語」等の科目は Class、学年は AcademicSession を用いて表現できる。
- 評価項目の階層化が必須となる場合は、AssessmentLineItem の利用を検討する。
- 各評価項目（LineItem）の評価段階を ScoreScale で定義し、Result を用いて評価項目ごとの点数や評点を記録する。
- 行動の記録等、入力が文章（所見）である項目の入力には、Result の comment プロパティに所見を入力する。
- 評点を入れる LineItem は調査書を元に定義する。システムごとにデータ項目の粒度等に差異が見られるため、都道府県や学校法人ごとに追加で項目を定義できるようにする。



・ 出席数も LineItem で扱うことを検討する。（図 1: OneRoster Gradebook Service のデータモデル）



- 6人の生徒（Person）で構成され、8つの課題と結果（LineItem）ごとにスコア（Result）が割り当て
- 合計48のスコア（Result）が、8つの課題と結果（LineItem）と生徒（Person）で1:1にマップされる
- 5つのカテゴリが定義されている。
- 英語テスト（English Test）の結果（文字）を英語コース（English Course）と年間プログラム（Year Programme）カテゴリに割り当てるためには、ScoreScaleで文字結果の数値結果への割り当てを定義する必要がある。

（図 12 OneRoster 1.2 Gradebook Service による評価表定義の例）

成績情報																					
	学習の記録						特別活動の記録				行動の記録										
	国語						学級活動	生徒会活動	学校行事	その他	基本的な生活習慣	健康・体力の向上	自主・自律	責任感	創意工夫	思いやり・協力	生命尊重・自然愛護	勤労・奉仕	公正・公平	公共心・公徳心
	教科評定			観点別評価																	
	一年（点数）	二年（点数）	三年（点数）	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度															
伊藤 健太	10	9	8																		
佐藤 花子	10	8	9																		
鈴木 一郎	10	9	10																		
高橋 美咲	10	8	8																		
山田 太郎	10	9	9																		
渡辺 彩	10	8	10																		

（図 3：成績情報の OneRoster 1.2 Gradebook Service への適用例）

※ 結果は学習内容の記述の標準仕様である CASE の参照 ID を入れることができる。CASE を用いて詳細な学習内容を連携させることが期待できる。

4.3. 仕様の精緻化および実装に向けた支援

- 今回の調査で得たデータ項目と、実際に交換されている実データとの内容の確からしさを教育委員会、学校や専門家、関連企業、団体等へヒアリングし、議論を重ねることで仕様を精緻化する。
- 仕様の精緻化より抽出されるカスタム項目やデータモデル、および実装に向けたガイドライン（ベストプラクティス）を整理し、OneRoster Japan Profile を更新、または高等学校入学者選抜用の Japan Profile を新たに策定する。

※ OneRoster Japan Proflie の正式名称：
1EdTech OneRoster 1.2 CSVBinding: Japan K-12/SchoolsProfile

（以上）